

通所介護における最適な照明環境について

～利用者にもスタッフにもやさしい環境を目指して～

発表者 南 あゆみ(介護福祉士)、共同研究者 古賀 かすみ(看護師)、中馬 健一(介護福祉士)

【はじめに】

デイサービスはなぶさ(以下、当事業所)は、介護老人保健施設 愛と結の街の1階フロア内で事業運営している。そのフロア内において、体操・レクリエーション活動や選択制のクラブ活動等を実施、昼食時には食事も提供している。さらに隣接している浴室設備を使用して入浴サービスを実施しているが、スタッフは日頃から照明を点灯してもフロアや浴室、脱衣所、トイレ等が常に薄暗く、周囲が見えにくいと感じていた。また建物の構造上、フロア内に吹き抜けエリアがあり、そちらから外光を取り入れる構造になっているが、真夏の晴天を除くとフロアの中央部まで光が入らない。そこで、利用者に及ぼす影響や環境の実際について聞き取り調査及び照度計を用いた照度調査を実施した。その上で最適な環境を目指して対策を講じたので、ここに報告する。

【対象と方法】

対象: 当事業所利用者 31～34名、スタッフ(10名)、当事業所フロア、トイレ、浴室、脱衣所、出入り口等の空間

実施期間: 令和4年5月21日～令和4年9月5日

(1) フロアの明るさについて利用者、事業所スタッフに聞き取り調査を実施。(2) フロア等の照度について、照度計(※1 JIS規格品)を用いて環境調査を行う(※2 JIS照度基準比較)。(3) 調査結果を基に、照度不足の地点について分析を行う。特定箇所に照明を追加使用して評価を行う(聞き取り調査等)。

※1 JIS C1609-1:2006 一般型A級照度計相当。 ※2 JIS Z9110:2010 照度基準

【結果】

- (1) 聞き取り調査の結果、利用者からは、活動においては細かな作業が出来ない(工作や手芸等)、移動時に見えにくい、暗い雰囲気になる等の意見が大半を占めた。また、スタッフからは更衣室での皮膚観察や処置をする時に困った事があった等の意見が上がった。
- (2) 照度計を用いてフロア内の各場所の照度調査を実施。JIS照度基準に届かない地点が多数を占めた(晴天時、曇天時、雨天時では若干数値が異なる)。
- (3) 調査結果を基に、今回は脱衣所に4箇所照明を追加設置(JIS照度基準の規定を満たす条件)。実施後の聞き取り調査において、利用者からは「更衣の際に間違えがなくなった」「明るい雰囲気で気持ちよくなった」スタッフからは「皮膚状態の観察がしっかりと行えるようになった」「利用者の出来る範囲が広がった」等の意見が上がった。

【考察・まとめ】

加齢による視機能の低下は40歳以降に誰でも起こり得る。老化に伴う水晶体の硬化による老眼、瞳孔の縮小化による明るさの低下や暗順応機能低下等の感覚機能低下は、利用者のケアを実践する上では当然ながら配慮すべき事である。一般に「明るさ」を示す尺度に照度(単位 lx)がある。照度は作業に必要な明るさを示すものであるが、高齢者の居住空間では上記の理由からJIS照度基準の最大2倍～5倍程度必要と言われている。当事業所では、これまで利用者の活動参加や自立支援に向けた様々な取り組みを実施してきた。それに関して、心身機能面のアセスメントは重点を置いたが、取り分けケアを提供する事業所の「環境アセスメント」については深く実施しなかった点は否めない。

結果から、住宅においても150lx～200lx、作業空間においては300lx以上が推奨されているが、当事業所においてはそれに満たない地点が多数ある事が分かった。構造上の理由もあるが、フロア内の外光が入らない地点においては利用者の活動に支障が生じるレベルであった。その後、脱衣所に照明を設置して評価を実施したところ、利用者からは好意的な意見が多数寄せられた。特に利用者が、「明るくなった事で雰囲気も良くなり、気持ちも前向きになった」との反応や視力障害のある利用者も実際にスタッフへ頼る事なく、自分で更衣が行える部分が出てくる等の良い効果を確認出来た。また、スタッフにおいても利用者の皮膚状態観察が行いやすくなった事で、皮膚異常の早期発見と早期対応が実施出来るようになった意義は大きいと思われる。これらの事から五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)の中でも、最大の情報が得られる視覚は利用者にとって重要且つ不可欠な要素であると認識する事が出来た。その点、明るさや光に対する配慮不足が、自立支援にも影響を及ぼす可能性がある事も認識していかなければならない。

今回、スタッフが日頃から感覚的に暗いと感じていた事をきっかけに取り組みを実施した。照明に着目する形になったが、「環境アセスメント」評価は他にも熱・空気・音等多岐に渡る。それについても今後評価していく事で、利用者へのサービス質向上やスタッフもケアがしやすい環境の構築に努めていきたい。

〈参考文献・資料〉高齢者のための建築環境 日本建築学会編 彰国社、図説 やさしい建築環境 辻原 万規彦 監修 今村 仁美・田中 美都著 学芸出版社、世界で一番くわしい照明 07 安齋 哲著 X-knowledge p24-p89、照明設計の教科書 福多 佳子著 学習出版社 p10-p21